# 乳幼児保育研究部会　公開保育

令和5年11月15日神戸市の取り組みとしての乳幼児研究部会で自園は、主に0歳児の公開保育をさせていただきました。
当日は、神戸大学大学院　人間発達環境学部教授　北野　幸子先生と他施設の参加者からご助言をいただきました。公開保育で頂いた、助言を記載させていただきます。
様々な角度から自園を評価して頂き、よりよい時間になりました。
これからも、更に保護者の皆様に安心して子どもたちを預けて頂けるよう、理念である「あたたかい昼間のおうち」を大切に、職員一同精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

**神戸大学大学院　人間発達環境学部教授　北野　幸子氏**

・やわらかい歌声とわらべうたの温かさの中で、強いられていない。しかし、興味がいざなわれる、それぞれの子どもたちの姿が見られました。
それぞれの楽しみ方、味わい方があることを、今後も尊重していってください。
・物の取り合いの場合では、怪我になることもあるので一概には言えないですが、即解決するよりも、育ち合いの契機として、言葉を添えたり、見守ったり、より暖かなタイミングで関わりが期待されます。
解決よりプロセスが大切ですね。
・「〇〇に興味があるから」「今日は〇〇だから」等、子どもの姿や状況をもとに意図がはっきりすると、保育士の子どもへの言葉かけが自然と出てきます。
・座っても、立っても遊ぶことができる壁面の遊具は、よく考えられており、手指の微細な動きや五感が培われる環境でした。触覚や嗅覚にかかわる遊具の充実や、座って・立って、に加えて、手にとったり、持ち運んだり、歩きながら遊ぶ姿もイメージした環境の再構成により、さらに楽しく、育ちにつながりますね。

**他施設からのご助言**

・生活リズムが安定しているようで、子どもも職員もとても落ち着いている環境だった
・ハイハイが十分にできるスペースが作れていた。

・段を上ったり、降りたり、自由に体を動かせる工夫をしていた
・子どもの興味のある玩具、手作りおもちゃが程よい量で用意されていた。
・職員の笑顔が素敵だった
・わらべうたでゆったりと十分に関わった後で、粗大運動ができていた
・わらべうたの中で、自分の名前を呼んでもらえていて、自分を大切にされていると子どもたちが実感できると思った。
・部屋のスペースがあるので、常にトンネルなど出して子どもがやりたい時にできるようにしても良いと思った。
・季節の物（さつまいも、落ち葉）を置いて、自由にあそべる環境が良い
・温かく関わり、一人ひとりを見渡しながら子どもたちに声を掛けていた
・無理に誘ったりせず、集まってきた子にさりげなく誘っていた
・粗大あそびのトンネルは0歳児には長いと感じたが、「おいで　おいで」など優しく言葉掛け、子どもが安心してやってみたくなるように援助されていました。